

記念講演 II

チームマネジメント ～今治からの挑戦～

岡田 武史

株式会社今治、夢スポーツ 代表取締役会長
公益財団法人日本サッカー協会 副会長

目 次

- | | |
|--------------|------------|
| 1. チームビルディング | 4. フィロソフィ |
| 2. 企業理念 | 5. リーダーシップ |
| 3. 当事者意識 | |

1. チームビルディング

(1) 日本サッカー界の方向転換

愛媛県今治市のサッカーチームに関わったのは9年前からだ。縁もゆかりもない場所だったが、声を掛けてもらい、最初はサッカーを強くすることだけを考えていた。

日本代表が世界で勝つために一つだけ足りないのは、主体的にプレーする自律した選手だった。Jリーグができたとき、世界中からJリーグにきた監督たちは、「どうして日本人はここでどうプレーすればよいか聞くのか。それを自分で考えるのがサッカーだろう」と言った。それまで日本では、「ここでボールを持ったらここに蹴れ」とハウツーを指導していた。海外から来た監督の影響を受け、「選手に判断させるには、自由を与えなければならない」と、日本サッカー界は大きく方向転換した。ティーチングではなくコーチングだ。



(2) 守破離という考え方

日本のサッカーをさらに強くするためには、育成から変える必要があると考えていたころ、スペイン人のコーチから、「スペインにはサッカーの型があるが、日本にはないのか」と言われた。われわれはこの30年間、型にはめてはいけなと言ってきたが、あれだけ自由奔放なスペインにさえ型があるという。よく聞くと、“型にはめる”の型ではなく、16歳までに原則を教え、あとは自由にするとの話だった。日本では、まず自由を与え、高校生から戦術を教えている。全く逆だ。